

# 両国観光まちづくりグランドデザイン 第3回地域連絡会ダイジェスト

## 第3回地域連絡会を開催しました。

両国地域 A～D エリアを横断して情報交換を図る地域連絡会が開催されました。第3回地域連絡会では、3月20日に開催する「両国春のまちブラ」の内容の報告と、これからの取り組みに向けての意見交換を行いました。

### 開催概要

- 日時：** 平成28年2月29日（月）18時00分から19時30分
- 場所：** 両国駅前会館
- 出席者：** NPO 法人隅田川・江戸文化観光振興会、  
両国三丁目町会、菊川一丁目町会、立川三丁目町会、  
立川菊川まちづくり研究会、国技館通り商店会、石原二丁目商店会、  
JR 東日本千葉支社 計10名
- アドバイザー：** 大下先生（帝京大学経済学部観光経営学科長・教授）
- 事務局：** 墨田区都市計画課、観光課 計9名

### 参加者からのご意見

#### 両国春のまちブラ に関するご意見

- ・安兵衛公園は菊川駅から離れている。菊川駅からの安兵衛公園への誘導が大事だ。少しずつ動線のPRをしていかないといけない。
- ・シャトルバスのルートに商店街を入れた方がよい。
- ・拠点が4つになり、イベントの目的がわかりづらくなるのではないか。
- ・このイベントをきっかけに、新しく両国に住んでいる方にも両国のよさを知っていただく機会になってほしい。

#### 今後の取り組み に関するご意見

- ・平成25年に両国観光まちづくりグランドデザインが策定されて、3年経っている。どういう方向に向かっているのか、将来イメージを共有することが大事だと思う。
- ・地域主体でうまくいっている観光まちづくりの事例をエリア懇談会等で教えてほしい。

## 今後の取組に向けてのアドバイス(大下先生より)

### これまでの振り返り

ランドデザインも、時代とともに変えていかなければいけない。地域連絡会で、忌憚のない意見をいただき、真摯に受け止めさせていただいて、必要なタイミングで盛り込んでいきたい。

今回のまちブラは4つのエリアでそれぞれの取組を開催する。互いに競い合いながら、認め合っていくような関係になれるとよい。最大の敵は無関心である。

### 地域特性を生かす3つのポイント

#### その1 情報の受発信をする

そろそろ情報をうまく使う時期。情報発信だけではない、受発信をする。双方向にあることが大事。Facebook、ケーブルテレビ等、メディアをうまく活用するとよい。

#### その2 主体をひろげる、互いの関係を強める

活動のパワーをつけるため、主体をひろげ、関係を強める必要がある。子どもにひろげる、商店街にひろげるなど、主体をひろげていくことが大事である。

今回のまちブラは4エリア同時開催としているが、例えば、月ごとに異なるエリアで連続してイベントを開催するなど、日程をずらすこともひとつの方法である。他のエリア同士を支え合う、地域を超えたイベントにしていくことも考えられる。

#### その3 ハード・ソフトをつなぐ環境づくり

ハードがパソコンだとすると、ソフトはアプリケーション。それぞれ単体では動かない。相互をつなぐ環境が大事である。両国観光まちづくりランドデザインは、都市計画課と観光課、それぞれの部署を超えて連携している画期的な試みである。これからはメディア、事業者、商店街とネットワークのある観光協会と連携していく必要がある。イベントがイベントで止まらない、意識喚起、仲間づくりを心がけ、ハードとソフトをうまくつなぐ環境づくりを図っていただきたい。